

生きもの調査レポート

2024年6月14日 場所：神奈川県愛川町JONA田んぼ 天気：晴れ 気温29度

JONA田植え1週間後（畦草刈り）		
動物調査	出現種数	種名
鳥	6種	キジ、スズメ、セッカ（鳴声）トビ、ハシボソガラス、ホトトギス
は虫類	—	—
両生類	1種	アマガエル
貝類	—	—
チョウ類	3種	ナミアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ
水生昆虫	7種	カメムシ目：コオイムシ 甲虫目：コシマゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、チビゲンゴロウ、コガムシ、ゴマフガムシ、ヒラタガムシ
トンボ	2種	ホソミイトトンボ、シオカラトンボ
他昆虫	4種	ハラヒシバッタ、コガタノミズアブ、ユスリカ、カゲロウ幼虫
クモ	2種	徘徊：キクヅキコモリグモ 造網：コサラグモ類
その他	3種	ユリミミズ、ヒル（赤い）、カイミジンコ類
動物28種 確認 ※y = 幼虫 ▲ = 外来種		
目立った生きもの：（全体的に少なかった）		

畦草調査	出現種数	種名
在来種	30種	畦周り2瀬：アキノキリンソウ、アケビ、アミミドロ、イヌガラシ、イヌタデ、イヌワラビ、オオジシバリ、オオバコ、オヒシバ、カキドオシ、カゼクサ類、カタバミ、カラムシ、ギシギシ、スギナ、セリ、チドメグサ、ツユクサ、ドクダミ、ハコベ、ヒルガオ類、ヘクソカズラ、ヘビイチゴ、ヨモギ、ヨメナ 畦周り8瀬のみ：アカメガシワ、イノコヅチ、カモジグサクログワイ、トキワハゼ、ホトケノザ、メヒシバ
外来種	17種	畦周り2瀬：アカバナユウゲショウ、アメリカフウロ、オオイヌノフグリ、カナムグラ、シマスズメノヒエ、ジャノヒゲ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、タチイヌノフグリ、ナズナ、ムラサキカタバミ、 畦周り8瀬のみ：アメリカセンダングサ、イヌムギ、エゾノギシギシ、オッタチカバミ、ハキダメギク、ハルジオン、パンジー、ネズミムギ

植物47種確認 ※畦草の外来種率36.17%

*17世紀（江戸時代）以降は外来種に入れてあります。

目立った草花：（チドメグサ） 農道を挟み太字は2瀬と8瀬共通の植物。圃場の“レア草”センニンソウが今年は見つからなかったの、安否が気になります。



ホソミイトトンボ

JONA 愛川田んぼ 解説

動物：田んぼの周辺環境からすると、通常はもっと両生類や水生昆虫、トンボが来ても良いはずなので、転作の影響はあるのだろうと思います。田面が藻類マルチ状態で水面がないことも一因でしょう。

植物：種数は通常の慣行に比べて約3倍ほど多かったです。外来種度が高めなので、定期的な高刈りで在来種数を保てるかが多様性アップには重要です。



法面と広い畦が草の多様性を保全



アミドロマルチが抑草



コガムシ幼虫

ユリミミズ↓

カゲロウ幼虫

アマガエル幼生

カゲロウ幼虫

コガムシ卵囊↗

ユスリカ蛹

コオイムシ幼虫

チビゲンゴロウ

←コシマゲンゴロウ幼虫

←ヒラタガムシ

コガタノミズアブ幼虫→